

## 令和8年度 練馬区立貫井中学校 学校経営方針

校長 佐藤 明子



## 学校教育目標

- よく考える人
- 思いやりのある人
- ◎ 実践する人

〔◎は、令和7年度重点事項〕

## 校章の精神

- ◎ 自律
- 誠実
- 根気
- 健康

生徒と教職員が安全で安心して過ごせる学校づくりを最重要課題として取り組むとともに、「練馬区教育振興基本計画」や持続可能な社会づくりに向けた教育を確実に推進するため、目指す学校像と具体的な方策を着実に実行する。また、様々な場面でタブレットをはじめとする ICT 教材・教具を有効に活用し、学校教育目標と校章の精神の具現化を通して、未来社会に通用する「人」としての資質・能力を育む。

## I 目指す学校像：キーワード「魅力」と「活力」と「信頼」

## 1 魅力ある学校

生徒が学ぶ意義を実感し、確かな学力の向上につながる授業を中心に、魅力ある教育活動を展開する。

## 2 活力のある学校

生徒が主体的に行動し、自らの力を発揮できる環境を整え、活力ある学校生活を実現する。

## 3 信頼される学校

家庭および地域との協働体制を強化し、生徒・保護者・区民から信頼される学校を創る。

## II 目指す生徒像：キーワード「自己形成」

- ◎ 自らの考えを礎に、他者と協働して学びを深め、自己を形成しながら未来への歩みを切り拓く生徒

## III 教育に臨む基本姿勢：キーワード「承認」×「成長支援」×「自己有用感」

生徒一人一人のよさを認め、その可能性を丁寧に育む関わりを通して、生徒が自らの成長と

自分の力の発揮を実感できる指導に努める。

○令和の日本型学校教育の構築＝個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実

○子供の特性を重視した学びの多様化の推進、令和7年度の実践と成果を基に柔軟な学びの場の保証

＝教科等の本質を踏まえた教育内容の重点化と教育課程編成の弾力化

## I 学習指導 &lt;家庭との連携・協力を基盤に基礎・基本を重視した学習指導で確かな学力の定着を図る&gt;

①一人一人に分かる、できる喜びを味わわせ、自発的・主体的に成長する過程を重視した指導を行う。

②生徒の実態に応じた丁寧で根気強い指導の実施により、基礎的・基本的事項の習得を徹底する。

③体験や事実、根拠に基づいた学習活動を展開し、生徒自らが課題解決する授業へ改善を図る。

④ねらいを明確にした計画的で見通しのある授業を実践し、学習の達成度を形成的に評価して、生徒が学習の意義や価値を実感できるようにする。

⑤観察・実験・調べ学習、発表や制作などを通して生徒が自ら考え、選択、決定して表現する活動を意識的に設定する。

⑥タブレット等の ICT 機器を積極的に活用し、生徒の興味・関心を生かす多様な学習を展開する。

⑦仲間と体を動かす喜びを基盤に、健康の保持増進と体力の向上を目指す教育活動を充実する。

⑧NIE や読書活動の促進を通して、学校図書館を学習情報センターへと整備し、積極的に活用する。

## 2 生活指導・進路指導 &lt;自他を大切にできる豊かな心と共感的な人間関係を培う&gt;

①「一人の人間として大切にされているという自己存在感」、「ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感」、「他者のために役に立った・認められたという自己有用感」を、生徒が実感できる活動を重視する。

②人権を大切にできる精神を養うとともに、日常から教育相談的機能を生かした指導を行う。

③健全な生活習慣と集団における規範意識を確立できるよう、日常の基本行動を基盤とした体系的な生活指導を計画的に推進する。

④特別支援教育の理解を充実し関係者間の共通認識の下、個別の実態に応じた学習の場を確保する。

⑤いじめや問題行動の早期発見に努め、校内いじめ防止対策委員会を中核として教職員が一体となって対処する。また、家庭や関係機関と連携を密に組織的対応を徹底し早期解決することを重要視する。

- ⑥不登校巡回拠点校として、支援の機能と体制を整え、生徒が安心して過ごす校内の居場所を充実する。
- ⑦近年の予測不能な自然災害の状況を踏まえ、地震や火災、不審者等への危機意識をもち、安全な避難の徹底を図るとともに、生徒自らが自分で自分の身を守る意識をはぐくむ安全教育を充実する。
- ⑧多様な場面や人との出会いを通して、生徒が自己理解と将来への見通しを深められるよう、3年間を見通した体系的なキャリア発達支援を推進する。

### 3 特別活動・その他 <生徒の主体性を生かし社会性や実践力を高め、成就感を得る活動を展開する>

- ①年間計画に基づき、生徒の主体性や社会性を発揮する学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を教科学習や総合的な学習の時間と効果的に連携して実践し、折々に適切に評価する。
- ②自発的な活動と当番活動を区別し、生徒の自発性と自治性を重んじながら、集団や自己の課題解決を通して成就感や工夫を育てる特別活動を進める。
- ③活動前に生徒に活動の目標を意識させ、活動後には振り返り、成就感を味わわせ、自信を獲得しながら集団や社会の形成者としての資質・能力を育成する。

### 4 学校運営 <保護者や地域と協働し、子供の成長を共に支えながら、信頼される教育を推進する>

- ①学校経営への参画意識をもち、連絡・相談を通して組織として課題や問題に取り組む。各人は、対外的には、学校の代表であるとの意識をもち、丁寧かつ迅速に問題に対処する。
- ②コミュニティ・スクールとして地域の教育力を学校教育に生かすとともに、学校・保護者・地域が、それぞれの役割と強みを発揮する三位一体の教育活動を展開する。
- ③各担当が、便りやホームページ等で教育活動を家庭や地域に積極的に伝える発信者になるとともに生徒や保護者からの評価を受け止め、改善することはすぐに直し、説明すべきことは説明する。
- ④PDCA サイクルや OODA ループを活用して実践後すぐに改善計画を立案し、コスト意識をもって効率的な運用を図るとともに、校内 DX 化を推進して勤務の効率化を進める。
- ⑤生徒による授業アンケート・作文等の記述、保護者・地域等からのアンケート、生徒や保護者によるフォーカスインタビューを適時行い、学校運営に有効活用する。
- ⑥誰しものが、清潔かつ安全で使いやすい施設・設備と思えるよう、日常から整理整頓をはじめ、点検や改善を行い、教育環境を適切に整える。

### 5 研究・研修 <教育公務員として、自らの資質の向上を図り、学校の教育力を高める>

- ①都・区、研究団体主催の研修等に積極的に参加し、学んだ成果を教育活動に生かす。
- ②小学校との連携と9年間の学びの連続性を大切に、発達段階に沿った効果的な指導を行う。
- ③効率よい職務遂行を心掛け、自らの健康管理と家庭を大切に教職と両立した社会人を目指す。

## IV 求められる教職員像：キーワード「最適」と「組織」

### 1 法の遵守とサービスの厳正

- ①法令及び学習指導要領等に基づき、公平・公正な教育活動を実行する。
- ②人権を侵害する行為の根絶を図り、サービス事故防止の徹底を図る。

### 2 プロとしての自覚と使命感

- ①高い指導技術と弛まぬ研鑽、人間性あふれる温かな心をもって職務に当たる。
- ②ものごとを進める際には、優先順位は「生徒への影響度」「生徒一人一人の最適化」で考え、「どうしたら実現できるのか」の視点に立ち、課題解決し、その手法を現実的に検討する。

### 3 組織人としての言動

- ①学校経営への参画意識や当事者意識の向上による組織目標の達成を目指す。
- ②ミスやトラブルのリスクと起きやすいポイントの共通認識をするとともに、主任や管理職への相談の習慣を身に付ける。特に個人情報の取扱は、複数でダブルチェック体制を確立する。

### 4 公務員としての社会性・協調性・コミュニケーション能力

- ①教職員全員でワークライフバランスを実現し、相談しやすい環境の整備と声掛けを積極的に行う。
- ②困った情報こそ、担任、学年、教科、部活動等で留めず、関係する委員会、部会、分掌への報・連・相+記録を徹底し、組織で迅速に解決する。